

晩秋の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、大過なくお過ごしのこととご拝察申し上げます。日本の総人口の 7 割を超えたワクチン接種のお陰なのか、それとも三密回避に努めた国民力の賜物なのか原因は判然としませんが、いずれにしても新型コロナ罹患者数は劇的に減少し、全国の緊急事態は解除されて「WithCorona」の日常が戻りつつあります。

これは「後手後手」と野党から批判を浴び続けた菅政権当時の様々な仕掛けが功を奏してきたものと考えられますが、今それを声高に叫んだ野党々首達は何故か口を噤んだままです。

自民党総裁選も順当なところへ落ち着き、任期満了による衆議院総選挙が始まる中、皆様がこの支部長通信を読まれる頃には新政権が決定していると思われませんが、10/26 付の産経新聞のアンケート調査速報に依れば、自民党の単独過半数が微妙であり立民と維新が躍進すると報道されていましたので、この産経予想と選挙結果を照合してみたら如何ですか？

先月も自衛隊関連行事は一切無く、残された唯一の楽しみは例年 12 月開催の「新田原エアーフェスタ」のみとなり、今年は何としても第一空挺団の落下傘降下とブルーインパルス曲技飛行が生で見たいと思うのは私ばかりではないものと思います。そこで今回は人数限定の新田原基地公開行事をご案内致しますので、見学希望者は是非ともお早めに申し込んで下さい。

今月も小川先生の手厳しい、そして自衛隊愛に溢れるメルマガが届きましたので掲載させていただきますが、社長業の会員諸兄も「以て他山の石とすべし」の心構えで一読賜れば幸いです。(笑)

・プレゼンに出る「戦えない自衛隊」

日本国内では 10 月 31 日投開票の総選挙に向けて各方面の動きが加速していますが、それは関係なく、外国から日本に注がれている冷ややかな眼差し、それも友軍である米軍からの厳しい視線についてお話しておきたいと思います。日本国内のお祭りだけで盛り上がっては平和も繁栄もなくなるという話です。

「小川さん、自衛隊は戦えませんね。あれを見れば一目瞭然です」

そう言ったのは米国陸軍の大佐。「あれ」と指さされたのは、陸上自衛隊の某陸将のプレゼンテーションでした。舞台上の巨大スクリーンにはパワーポイントの資料が映し出されています。その向かって左手に演者の席があり、そこにPCを前にした某陸将が座り、スライドを切り替えるごとに「はい次」「はい次」と声を掛けています。自分でPCを操作する訳ではありません。

某陸将が声を掛けると、後ろに控えている 4~5 人の幹部たちがPCを操作してスライドを送っていきます。

こんなことは演者の某陸将が自分のPCのテンキーなどを使って簡単にできることなのですが、やる気配はありません。

おまけにスライドがひどい。とにかくびっしりと文字が書き込まれていて、発表を聴く側に伝えようとする気持ちなど毛頭も感じられません。細大漏らさず必要事項を書き込んでおかないと、責任を問われるという意識だけが伝わってきます。

要するに、某陸将がやっていた発表は一種の儀式であり、裏方も儀式の要員なのです。

同じとき、米軍側は陸軍大將が舞台上に上がりましたが、舞台の中央に立ち、アップルのスティーブ・ジョブズよろしく一人で話を進めます。スライドも手持ちのレーザーポインタの機能を使って進めたり、戻したりしていきます。身振り手振りやユーモアと表現力も豊かですし、スライドも聴衆に訴える視聴覚効果をにらんでデザインされていました。

なんでそんな日米の姿勢の差が問題なのかと思われるかも知れませんね。日米の共同研究の発表の場なので、そんな厳しい評価は必要がないように思われるかも知れませんが、米軍の大佐の指摘は正しいのです。まさに戦っている軍隊からのコメントなのです。

発表が儀式化している様子を見れば、自衛隊には杓子定規の動きしかできないのは明らかです。決められたことはそれなりにできても、臨機応変な対応は無理だとわかります。しかし、戦争においてはこちらの裏をかいてくる敵に柔軟に対応できなければ敗北します。米軍の大將のスタイルは米国では普通のものですが、融通無碍とも言えるほどの柔軟性を秘めています。こんな所にも戦える米軍、戦えない自衛隊の姿が浮き彫りになっているのです。

自衛隊側でも例えば 2015 年夏まで東部方面総監だった磯部晃一陸将の発表や講演のスタイルは米軍の大將と同じでした。私は嬉しくなり自衛隊も変わりつつあると思ったのですが、そうではありませんでした。磯部陸将は自衛隊では数少ない例外で私より 20 歳以上も若い陸将や陸将補が旧態依然たる儀式を踏襲しているのです。これは海上自衛隊、航空自衛隊でも同じです。

こうした細かいところから柔軟性を取り戻していかないと、組織の硬直化は進むばかりです。外国から注がれる眼差しは、米軍からのものだけではありません。敵国が冷笑を浮かべて日本の弱点を洗い出していることを忘れてはならないのです。(小川和久)

先月26日、私が所属する宮崎ロータリークラブの例会に尾山新田原基地司令をゲストスピーカーでお招きして30分の防衛講話をして頂きましたが、自らパワーポイント及びレーザー pointersを駆使されて、ウィットに富んだジョークを交えながら極東アジアの軍事情勢や日本の現状、そして米軍との連携など、大変判りやすく表現力豊かにお話しになりました。

小川先生ご指摘の「某陸将」のプレゼンテーションスタイルとは全く違い、まさか尾山司令は小川先生のこのメルマガを先読みされていたのでは勘ぐるほどで、実は小川先生は静岡県立大学の特任教授であり、また尾山司令は同大学卒業後に幹部候補生として空自パイロットへの道を進まれたエリートですから、どこかで接点があってもおかしくないなとも考えたところです。(^^;)

しかし尾山司令と小川先生に面識は無いはずで、昨年8月新田原基地司令としてご着任早々に「機会があれば是非小川先生をご紹介下さい」とのお電話を頂いた事を思い出しました。少年工学校7期生の小川先生とは、これまで高等工学校入校式や開校祭、また卒業式行事等で横須賀の武山駐屯地等でお目にかかっていましたが、コロナ禍の為この2年はお会い出来ておらず、誠に心苦しい限りですが、尾山司令とのお約束を未だ果たしてはいません。m(_)_m

話が横道にそれましたが、小川先生ご指摘の自衛隊組織の硬直化を見直し、私もお目にかかったことのある「磯部陸将」の如き柔軟性豊かな、将に尾山司令のような若く優秀な將軍閣下が航空自衛隊にも育ちつつあるという現実を今回垣間見て、大変心強く感じたところです。

ところで今度の衆議院総選挙の自民党重点施策を見て又もやがっかりさせられました。1番目のコロナ対策から経済や外交・教育等が羅列され、何と「憲法改正」は最後の8番目であり、文字数は一番少ない上、全く本気度が感じられず、岩盤保守層からの支持は期待出来そうもなく、コロナ対策や安全保障等、「憲法改正」さえすれば一気に解決する案件もあるはずですが、昨今リベラル化が深刻な自民党任せでは「憲法改正」など見果てぬ夢なのかも知れません。(怒)

さて緊急事態宣言解除に伴い、忘年会等で「ニシタチ」へもお出掛けの機会が増えてくる事かと存じますが、お互い「手指消毒・マスク着用・三密回避」を日常と考え呉々も用心致しましょう。

令和3年11月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小倉和彦